

ULT通信

あると

2020.1.15号 / vol. 91 発行 / ULT 図書館司書

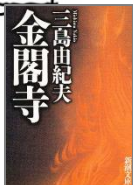
2020年なんて遠い未来だと思っていました…。
近未来に来てしまったようなワクワクを感じるのは
私だけでしょうか。2020年もULTは変わらず
みなさんの読書や学習をサポートしていきますよ！

生誕、没後〇〇年の
作家を紹介！

2020年 節目の作家特集



没後50年
三島由紀夫
1925.1.14-1970.11.25



主な作品『金閣寺』
『仮面の告白』『潮騒』他

生誕120年
サン＝テグジュペリ
1900.6.29-1944.7.31



主な作品『星の王子さま』
『夜間飛行』他

生誕100年
アイザック・アシモフ
1920.1.2-1992.4.6

主な作品『われはロボット』
『ロボットの時代』他

没後90年
田舎花袋
1872.1.22-1930.5.13



主な作品『田舎教師』
『蒲団』他

没後30年
池波正太郎
1923.1.25-1990.5.3



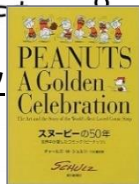
主な作品『剣客商売』
『鬼平犯科帳』他

没後10年
I・D サリンジャー
1919.1.1-2010.1.27



主な作品『ライ麦畑で
つかまえて』『ナイン・
ストーリーズ』他

没後20年
チャールズ・モンロー・シュルツ
1922.11.26-2000.2.12



人気キャラクター
『スヌーピー』の生みの親

没後70年
ジョージ・オーウェル
1903.6.25-1950.1.21



『一九八四年』
『動物農場』他

時代を超えて
読み継がれる
作品をこの機会に
ぜひ！

ULT NEWS

●浦学美術大賞展@ULT！

2月3日(月)～ULTにて、アートコースの作品
展が開催されます。12月に埼玉会館で展示した
作品のうち、厳選された作品を見ることができます。
浦学の芸術家たちの力作をぜひ見に来て
ください！

●ULT3階と4階プチリニューアル！

3階はグループ学習がしやすい机椅子に変更、
4階は座席数が増えました。どんどん使おう！

Reading★Marathon

★ ★ ★
25pt
3年 M.W.さん
November 16th

Reading★Marathon

★ ★ ★
75pt
2年 K.T.さん
December 13th

Reading★Marathon

★ ★ ★
100pt
1年 S.H.さん
November 6th

Reading★Marathon

★ ★ ★
25pt
1年 F.K.さん
December 3rd

新着案内

11・12月の新着は324点です。
一部抜粋で紹介します。

↓人気小説続々入ってます。

タイトル	著者	請求記号
これは経費で落ちません! 経理部の森若さん ③~⑥	青木祐子	913.6-アオ-3~6
小説天気の子	新海誠	913.6-シン
白銀の墟 玄の月 ①~④ (十二国記)	小野不由美	913.6-オノ-13~16
祝祭と予感 (蜜蜂と遠雷)	恩田陸	913.6-オン-2
人間	又吉直樹	913.6-マタ



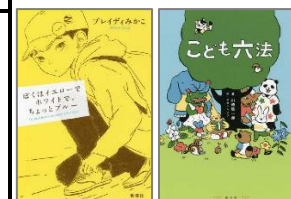
↓巻で話題の中国と韓国の小説。

タイトル	著者	請求記号
三体	劉慈欣	923.7-リュウ-1
82年生まれ、キム・ジヨン	チョ・ナムジュ	929.13-チヨ

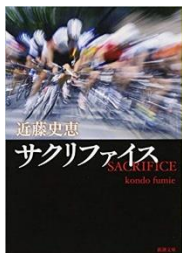


↓その他、時事問題系、書店やSNSで話題の本など。

タイトル	著者	請求記号
最新時事用語&問題 2021年度対応 (新聞ダイジェスト増刊号)	中本正幸	031-ナカ-2021
ギネス世界記録 2020	グレイグ・グレンディ	031.5-GI-2020
こども六法	山崎聡一郎	320-ヤマ
ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	372.33-フレ
麒麟解剖記	郡司芽久	498.8-クン
国境を越えたスクラム ラグビー日本代表になった外国人選手たち	山川徹	783.48-ヤマ



コラムdeレ。



第91回は笹木が担当です。テーマは「チーム」。自転車ロードレースのプロチームのお話、近藤史恵著『サクリファイス』を紹介します。

タイトルの「サクリファイス」とは「いけにえ・犠牲」という意味の言葉。小説の冒頭、レース中に誰かが「犠牲」になった、つまり、クラッシュ事故で亡くなった様子が描かれます。亡くなったのは誰?なぜ事故は起きた?…ミステリー仕立てで物語がスタートします。

自転車レースのチーム内には、「エース」と「アシスト」という役割分担があり、アシストの選手たちは、エースを勝たせるために走ります。アシストが「働き」、エースが「勝つ」。例えば、レースでは先頭を走る人が空気抵抗を大きく受けるので、アシストは自らを「犠牲」にして先頭を走り、その後ろで体力を温存したエースが勝負所でアシストを抜き去り、勝ちを取りに行きます。

この物語の主人公・白石誓は、大学を卒業してプロチームに入って2年目、「働く」ことに純粋な喜びを感じるアシストの選手です。チームには絶対的エースの石尾、次期エースと目される若手の伊庭がいます。常に勝利への執念を燃やしアシストを非情に使い捨てる石尾には、過去に事故を装ってエース候補の後輩選手を潰したという噂も…。レースでは、チームでは、誰が誰を「犠牲」にするのか。物語の終盤、想像を超えた「犠牲」のかたちを見せつけられ、スポーツ小説として、人間ドラマとして、ミステリーとして、すごい本だ!と震えました。

この小説を読んで、ここ最近、「犠牲」という言葉がなんとなく自分の心に引っかかっていたことに思い当たりました。山口県の小中学校で「トロッコ問題」を取り上げたことがニュースになっていたり、ラグビーワールドカップのインタビューで選手が「全てを犠牲にしてきた」と話していたり。誰かを助けるため、何かを成し遂げるために、他の誰か・何かを犠牲にすること。議論を呼んだり美談として語られたりする犠牲という行為は、何か心に引っかかるものを残し、文学の世界でもたびたび取り上げられるテーマだと思えます。次回のお題は「犠牲」にします。